

新潟県中越地震発生後の孤立地域の状況と課題

照本 清峰¹・澤田 雅浩²・稲積 かおり³・河田 恵昭⁴

¹人と防災未来センター 主任研究員 (〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2)
E-mail: terumotok@dri.ne.jp

²長岡造形大学建築・環境デザイン学科 准教授 (〒940-2088 長岡市千秋 4-197)
E-mail: sawada@nagaoka-id.ac.jp

³京都大学大学院情報学研究所 修士課程 (〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄)
E-mail: inazumi@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp

⁴人と防災未来センター センター長 (〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2)
E-mail: kawata@dri.ne.jp

新潟県中越地震の発生後には、道路や情報通信設備の損壊によって多くの地域が一時的に孤立した。今後の孤立地域対策を検討するために、孤立状況にあった地域の問題を詳細に検討しておくことは重要である。そこで本研究では、中越地震発生後の孤立地域における状況と問題の困難度を示すことを目的とする。調査においては、中越地震によって家屋の損壊等の甚大な被害を受けるとともに孤立状況にあった小千谷市東山地域を対象地域として質問紙調査を実施した。回答結果より、世帯員が集落内外に分散していた場合、そのうちの約 8 割の世帯は自分たちの集落に戻っていることがわかった。また孤立期における課題として、情報の途絶による問題が大きく認識されていることが明らかとなった。

キーワード：孤立地域，新潟県中越地震，小千谷市東山地域，質問紙調査